

総会アピール

いまこそ神奈川は環境先進県として日本をリードしよう

当協会は、四十有余年の歴史を通じて県など行政当局やボランティア団体と手を携えて、神奈川県自然环境の保全整備に邁進してきた。

残念なことに、官民の努力にもかかわらず、丹沢大山の自然の衰退に伴う県の「水瓶」の質的な危機、里地・里山における野生動物と人間生活間の軋轢、希少動植物の減少、治山工事や河川整備が結果的にもたらす海岸環境の劣化など事態は深刻化し、なかなか改善されない。さらに人間活動に起因するとみられる地球温暖化が、予測を超える規模と速度で地球の自然環境に影響を及ぼしつつあることは今や明白であり、それが生活環境を脅かす危険はまことに大きく、すでにその兆候は現われ始めている。

しかしながら、県民の英知と努力次第では、この厳しい現実に向かい向かうことの可能性と時間はまだある、と我々は確信したい。

県・市町村などの行政と個人・法人・団体を含む県民が一致団結し、環境に対する深い理解と未来への確かな展望を持って、この危機に積極的に対応することは時代の要請である。共に学びつつ、それぞれの立場でできることを直ちに始めよう。

そのため次の事項を官民が一体となって早期かつ強力に推進することを提案する。

- 1 地球温暖化に関する県民への啓発活動を火急の問題として強化し、実践に当たっては特に二酸化炭素排出規制を恐れることなく推進強化する。
- 2 丹沢大山保全再生計画の実施が県土全体にわたる自然の質の向上に直結し、すべての県民生活にとって極めて有益であることの啓発に努める。水源環境税の有効利用について研究を深めるとともに、河川管理事業を通じて海岸保全にも活用される方向を見出す。
- 3 生物多様性保持による人間生活環境の改善と安全性の確保のためには、希少動植物の保全とそのための特大自然環境の保全が重要である。

それを目的として、条例制定を含む保護施策を強化し、有志の個人や団体が保全に傾注している努力を補完・バックアップする。

美しく安全な県土と自然環境を子孫に残すことは、現在の我々の義務・責任である。子孫から尊敬され感謝される行動をいますぐに起こそうではないか。

神奈川県が全国をリードし、世界に誇れる環境県としての名誉ある地位を確保することを願って、本日このアピールを採択する。

2007年6月2日 NPO法人神奈川県自然保護協会総会